

編集staff

監修：片山 嘉政

編集長：小山 陽介

制作：館 一彰



編集後記

会報誌「鶴の声」も第6号の発行を迎えて非常にうれしく思います。毎回発行に際し、取材協力、情報などご提供いただき大変感謝しております。今後も卒業生の活躍の様子など数多くご紹介したいと思っておりますので、情報がございましたら鶴声会事務局までお寄せいただければと思います。

また併せて、多くの卒業生の住所不明者もあり、一つひとつ調査しておりますが、個人情報保護法などのこともあり、困難を極めております。お知り合いの方で、会報誌が届いていない住所不明者になっておられる方がいらっしゃいましたら、ご一報くだされば幸いです。

くらしき作陽大学同窓会 鶴声会

〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515

Tel:086-523-0888

(大学代表番号)

Fax:086-523-0111

katayama@ksu.ac.jp

鶴の声

vol.6
2015.7

TOPICS

特集 森博文先生に聞きました
松田藤子記念館設立
あの人は今





くらしき作陽大学鶴声会
会長 井端 豊実
(音楽学部音楽学科4期生)

鶴声会会員の皆様、お変わりございませんか。

昨年の10月11日、くらしき作陽大学キャンパス内に昨年で行ってあります鶴声会総会を開催致しました。内容につきましては、作陽学園報の「鶴声会より」にて報告させていただきましたが、会員相互の親睦も含めとても充実した時間を過ごすことができました。また、附属幼稚園(当時)の施設見学、マーチングバンドの演奏演技、食文化学部長による講演など多様な内容を企画していただいた岡山県支部及び大学関係者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、くらしき作陽大学は来年創立50周年を迎えます。1968年(昭和41年)に吉井川のほとり、鶴山城址を望む桃山の地に西日本唯一の音楽大学として創立され、1998年(平成8年)に現在の倉敷の地にキャンパスを移転。翌年「くらしき作陽大学」として開学しましたが、いよいよ大きな節目を迎えることとなります。今では会員も9,000名を超えました。支部組織におきましても、北は富山から南は沖縄まで21名の支部長を中心として活動を行っています。特に関西支部、山口県支部、愛媛県支部、高知県支部、鹿児島県支部、沖縄県支部など総会や支部独自の企画によりコンサート等開催し会員相互



くらしき作陽大学
学長 松田 英毅

鶴声会の皆さまにはお元気でお過ごしのことと存じます。

平成27年度も多くの新入生を迎え、早や5月が過ぎようとしています。

倉敷キャンパスが移転開学したのが平成8年でしたので、今年には20年になるところです。当時、大変お世話になりました津山市民や倉敷市民の方々の、両市民が仲良く作陽の発展を見守ろうとの意をこめて樹木された10センチメートルほどのどんぐりの苗木が今や5メートル位になって秋にはどんぐりの実をいっぱい実らせています。



の親睦を深めています。他にも、大学と各県吹奏楽連盟との連携事業の一環として、香川県、高知県、兵庫県、鳥取県では教員・大学生による吹奏楽クリニックも開催しています。また、音楽関係だけでなく食文化学部、子ども教育学部の卒業生の皆様もそれぞれの職場で活躍されているとの情報も多くいただいています。このような卒業生の活躍こそが大学に元気を与えるカンフル剤のひとつにはなっているのではないのでしょうか。これからの益々の活躍を期待しています。

ところで、昨年の夏、久しぶりに津山の地を訪ねました。学生時代に過ごした南新座のアパートも訪ねてみました。あれから45年過ぎたとはいえ、当時のことが鮮明に蘇ってきました。町並みは道路も広くなりとてもきれいに整備され閑静な反面、街ゆく人の少なさ、シャッターの下りた店舗の多さに虚脱としました。当時に比べ何となく賑やかさを欠いた雰囲気を感じると同時に、小高い丘に堂々と立つ作陽学園の大きな看板を思い出すときに、どうしても現在の大学の現状が気になります。

今や全国の音楽大学はいずれも存続をかけた厳しい状況です。現に作陽も音楽の入学者が激減し苦戦しております。音楽学部入学定員も100名から60名に、音楽短大も音楽専攻40名、幼児教育専攻40名と専攻分離し専攻していますが、それぞれ充足出来ていないのが現状です。このままの状況が進むと、やがてオーケストラ、吹奏楽、合唱など西日本では唯一の作陽でなければ体験できない演奏活動も厳しくなります。この現状を乗り切るためにも、母校発展のためにも、ぜひ、会員の皆様のご支援ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、会員皆様方の今後益々のご活躍とご健勝を祈念し、併せて、変わらぬ鶴声会へのご支援、ご協力を切にお願いし挨拶とさせていただきます。

当初、森の学校といわれるような自然豊かな環境づくりのために多くの植栽をしましたが、それぞれの苗木が成長しています。中でも春の花は美しく、吉野桜、シャクナゲ、ハナミズキ、八重桜、ツツジと咲きほこり、学生や来学者の目を惹かせてくれていたがようやく花の季節も終り、目にしみるような若葉の季節となっています。

数年前より「創立者松田藤子先生の教え」という本を編さんしていましたが、昨年発行いたしました。高校、短大、大学の多くの卒業生はじめ有縁の方々の思い出を中心に書かれております。ご一読いただけたらと思っています。また、昨年より着工してました松田藤子記念ホールを大学図書館の中に設け、3月にオープンしました。「志願は人格を決定す 継続は力なり」の住岡夜光先生よりいただいた直筆の掛け軸を中心に創立者が若い頃専門としていた刺繍、絵画、学歴の歴史、写真などをわかりやすく展示しています。

松田藤子先生が遺澤され28年になり、その教えが徐々に落ちてきているところから、今一度、確かなものとして作陽に学が後継に伝承していくという主旨で造られています。

大学へおいでになり是非一度ご覧いただければ幸いです。



鶴声会 副会長 片山 嘉政



2016年には大学創立50周年を迎えます。大学同窓会としてもこの記念すべき時、次年度の同窓会総会には、これまでより多くの卒業生とともに祝いができる何かを考えたいと思っています。改めてお知らせいたします。

平成27年4月、大学の組織も大きく変わりましたのでこの場をお借りして先生方のご紹介させていただきます。松田英毅学長、吉田一成先生が副学長に就任され、各学部の学部長先生方もかわりました。これまで音楽学部長、吉田一成先生から竹内京子先生に、食文化学部は山下静江先生から宮本拓先生に、子ども教育学部は、引さね高橋香代先生。少子化が進み大学も学生募集に一層力を入れるために一新の人事になったと思われる。同窓会と連携して事業を行うことが多くなってきました。吉田先生には高知、香川、鳥取での吹奏楽楽器別クリニックで大変ご尽力をいただいています。また食文化学部前学部長の山下静江先生には同窓会総会でいつも健康についての講演をいただき、今後の生活上注意すべき点などを教えていただきました。

同窓会活動も各地域で活発に開催されており、今回のこの会報誌でお知らせさせていただきます。演奏会、支部総会、など開催されていますので、地域での活動に参加いただいたり、各支部に情報提供などお願いできればと思っています。大学図書館には松田藤子記念ホールが設立されています。このコーナーには松田藤子先生にゆかりのある資料、また津山時代の写真パネルなども展示されています。津山を懐かしんでいただける場所にもなっていますので是非お立ち寄りください。

組織図

2015.4.1現在





竹本 洋 先生

近況を教えてください

悠々白雲。音楽からはすっかり解放されています。

作陽に赴任したきっかけを教えてください

ある演奏会が終わり楽屋に引き上げたとき、一人の紳士が訪ねてこられました。「謙遜」先生です。そして先生の「作陽に来てオーケストラを作ってください」この一言で作陽に行く決心をしました。堤先生って本当に不思議な方でした。以来30年勤め上げ、平成10年定年退職を迎えました。

作陽での思い出のエピソードを教えてください

*作陽音楽大学の創設から3年目を迎え、岡山市民会館にてオーケストラと合唱団により最初の演奏会を行い、県内外に大きな反響を呼び、

*津山文化センターにてヘンデル・メサイアの演奏会を行う。メサイアとしてはオケ、合唱共に大規模だったため、文化センターのステージでは間に合わず、大学の下駄箱を全学生で運び込み、見事立派なステージを作り上げました。全学生一丸となった熱気あふれるステージは大きな感動を呼び、あたかも作陽音大の将来の大きな飛躍を予言するかのよう出来事でした。

*音楽教育学科の設立の話が持ち上がった時「今西三典」先生を中心に情熱溢れるスタッフが集められ、私もその一員に加えられました。そして度重なる討論を経てやっと第一期生を迎えることができました。無我夢中のうちに月日は流れ、全国の教員採用試験シーズンを向かえることになりました。固唾を呑んで結果を見守るスタッフたち。その結果は予想もしない大勝利！次々と入る朗報に皆狂喜しました。「文芸春秋」に教員合格率全国一位！と掲載されたとき、我々のやってきた4年間は間違っていなかったと初めて安堵感を味わいました。そしてその年の3月には花の一期生を無事送り出すことができました。



*中村直樹先生率いる劇団「つくし」は作陽で初めて学生主体の創作オペラグループとして発足し、一連の作品は様々な反響を呼びました。

*オーケストラと共に発展を続ける交響楽団の演奏旅行もまた思い出深いもので、岡山、広島、松山、香川、松江、下関、福岡、大分、鹿児島、高知と多方面にわたりました。二度目に行った福岡でのコンサートでは大勢の卒業生が来てくださり思い出に残る一日となりました。弦楽合奏団副団長の卒業生である「仲芳美」君が感慨深げに言った「作陽もついにチャイコフスキーの演奏ができるようになったか！！」の一言が心に残りました。



半田 伸 先生



教員生活の思い出を教えてください

様々な思い出がありますが、教員教育科目を担当している関係で、大学・短大を含めすべての学科の学生さんと接することができました。

くらしき作陽大学になってからは食文化学部所属の教員になりましたが、音楽学部と子ども教育学部の授業も担当してきました。3学部の学生さんは専攻ごとにそれぞれ個性があり、授業中の雰囲気はかなり異なっています。個性豊かな学生の皆さんとご一緒できたことは、それなりに大変でしたが楽しい思い出です。

専門科目の実技ゼミを担当しなかったので個別に接する機会は少なく残念でしたが、幅広く多くの学生と接することができたのは幸せでした。

体育などの実習のお供で、大山登山やキャンプ・スキーなどの学外実習に学生の皆さんと一緒に出かけられたことは、とくに楽しい思い出になっています。英語の苦手な学生に何とか勉強してもらおうと様々な工夫をこらしたことも懐かしい思い出です。

年を重ねるとともに物覚えが悪くなってきました。最近の出来事はほとんど記憶に残らないのですが、昔のことは鮮明に覚えています。どこかでお会いすることがあれば声をかけてください。懐かしい思い出話をしましょう。

卒業生にメッセージをお願いします

英語や社会科が苦手だった卒業生の皆さん。語学は根気よく繰り返し勉強することです。グローバル化時代の今、英語の能力は必要不可欠でしょう。また、社会科は単に暗記するだけの科目ではありません。社会の仕組みを理解し、日々どのように暮らしていくかは現代社会に生きていく上で必要になります。生涯学習の観点からも改めて楽しく学んでください。

津山で学生生活を送った皆さん。津山の街並みも相変わらずで、体育館前からの鶴山の桜や那岐山の雪山の眺めは今も変わりません。そして意敷校で学んだ皆さん。新倉敷駅周辺の風景はあまり変わらず、精進の夜費や水島コンビナートの眺めも相変わらずで、四季折々の風景が楽しめます。機会があればぜひお立ち寄りください。

近況を教えてください

平成23年春に定年で退職しましたが、その後も非常勤講師としてくらしき作陽大学に通っています。津山に自宅があるので電車を乗り継ぎ片道約2時間の通勤をしています。

最近では長年ご一緒してきた教職員の方々も退職されて寂しくなりました。しかし、教室では若い学生の皆さんと接することができ、教師冥利に尽きます。

英語の担当は外れましたが、相変わらず教員教育科目としての「日本国憲法」や「国際文化論」などを教えています。年を取るとともに学生の皆さんと年齢差がひろがり、だんだん話が合わなくなってきました。さびしいことです。

作陽に赴任したきっかけを教えてください

津山郊外で生まれ育った私は、地元でできた大学の作陽音楽大学に縁あって就職しました。大阪の英語学校で講師をしていた時声をかけていただき、Uターンして故郷津山の大学へ就職することになったのです。



当初は英語担当の教員として勤務しましたが、その後法学も教えるようになりました。

高度経済成長期にあって、都会よりも田舎暮らしが性に合っていた私にはこの上ない職場でした。

作陽へは何年お勤めされていますか？

昭和48年10月から作陽音楽大学に就職し、途中留学による1年間の休職はありましたが、平成23年3月に定年で退職するまで、作陽学園一筋に38年間勤務しました。その後も引き続き非常勤講師として勤務しており、42年目を迎えました。



鶴声会役員紹介

顧問



会長



副会長



事務局長



常任幹事



幹事



事務局



会計



書記



常任幹事



幹事



監査





ピアニスト 茶山有里 さん

卒業年：平成8年
 学科：音楽学部音楽学科
 専修：ピアノ専修

外国で長年生活、勉強するにあたって、文化や習慣の違い、そして、言葉の壁にもぶつかったことがあります。どこの国でも音楽は世界共通語（ユニバーサル）と言う事を演奏活動を通じて実感しています。

2013年のドイツでのリサイタルでは、武満徹さんの作品を映像のプレゼンテーションとともに演奏し、ドイツ人の聴衆の一人から「僕はエンジニアで音楽家ではない日本の音楽を聴くのも初めてなんだけど、あなたの演奏はとても伝わるものがあって、僕は日本の音楽を理解し肌で感じる事が出来ました。ありがとうございます」とお言葉をいただき、音楽を聴いてきて本当に良かったと思うと同時に音楽の素晴らしさを肌で感じました。

こうした経験ができたのは作編で音楽の基本を徹底的に教えていただき、しっかりとした土台を作って頂いたお陰です。「志願は人格を決定する鍵は力なり」を信条とし、日々の積み重ねと努力によりこれまで音楽の道にずっと携わり続けて来ることが出来ました。また、前先生方や歌匠の教えも大変大きな励みでした。特に作編の先生方には在学中だけでなく卒業後も大変精身にサポートして頂いたり、数度も相談に乗って頂きました。皆様も大学での素晴らしい経験を活かし、自分の夢を信じて頑張ってください。

卒業後ドイツ国立アーヘン音楽大学大学院へ留学。2005年からアメリカに渡りニューメキシコ大学大学院で学び、その後アリゾナ大学博士課程を修了。留学中は数々の音楽祭やコンクールにも積極的に参加し、ベルリンでの国際シュブエーン・マスタークラスでは作曲家最優秀賞を受賞。アメリカ、サンタ・フェでのコンペティション・インターナショナル優勝。イタリアのシチリア島でのイブラ・ミュージック・コンペティションでは卓越した音楽家として武満徹特別賞を受賞。様々な功績を積みドイツでのインターナショナル・ピアノフェスティバル・リンドラーにゲストピアニストとして招待され、「ヴァルチューオーソ」「マスターピアニスト」と賞賛される栄誉を得る。ショパン、リスト、ドビュッシー、武満の録音はアメリカと日本のクラシックラジオ番組で紹介される。現在、ツシントンDC在住。ソロピアニストとしてだけでなく、室内楽、声楽伴奏にも精力的に取り組んでいる。



3月3日に地元米子市にてコンサートを開催されました。たくさんのお客様が来場され、遠方からも学生時代の友人や先生方も聴きにいられた大盛況とほったそうです。

松田藤子記念図書館からのお知らせ

【松田藤子記念ホール】の開設

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学附属図書館は、2014年が創立者・松田藤子先生の生誕115周年に当たるのを記念して名称を「松田藤子記念図書館」と改め、館内1階に「松田藤子記念ホール」を開設しました。記念ホールには創立者が遺した写真、美術作品、著作物、ゆかりの品、年譜などを展示しており、建学の精神や教育思想に具体的にふれることができます。是非一度お越しください。

【卒業生のご活躍より展示中！】

卒業生ゆかりの資料等を、聴声会の協力により、随時展示しています。貴重な資料等をご寄贈くださった卒業生の方には、改めてお礼を申し上げます。先輩方のご活躍は在学生にとっては何よりの励みになります。今後も、卒業生のご活躍に関するニュースや資料がございましたら、入試広報室または本館にお知らせくださるようお願いいたします。



【卒業生へのサービス】

本館は卒業生のおさまにも開放しています。下記の手順で申請していただければ、卒業生にも在学生に近いサービスをご提供いたします。

- ① 身分証明書と印鑑をご持参のうえ、図書館カウンターまでお越しください。
 *身分証明書：免許証、パスポート、保険証など（できるだけ顔写真のあるものをお持ちください）
- ② カウンターで「資料閲覧権」に必要事項をご記入のうえ、ご提出ください。
 *「資料閲覧権」は本館ホームページからもダウンロードできます。
 *申請書には卒業年度・学部学科をご記入いただくほか、ご自宅以外の連絡先（職場、実家等）も必要です。
- ③ 利用者登録の後、利用券を発行いたします。
 *利用券の有効期限は、登録された年度の3月31日までですが、更新が出来ます。
 *利用券は即日発行しますので、ご来館日に図書・楽譜の借出、視聴覚資料の館内視聴をしていただけます。ただし、図書館備え付けのパソコン（検索用パソコンを除く）と1Fラーニング・コモンズはご利用いただけません。また、すべてのサービスにおいて在学生と在籍教職員を優先することをご了承ください。

大阪市音楽団改め“Osaka Shion Wind Orchestra”で活躍されている卒業生の方々にお声をいただきました！

池田千瑞さん

卒業年：平成6年 音楽学部音楽学科 打楽器専修

卒業生の皆様、はじめまして！大阪市音楽団に入団してから早いものでもう17年目に突入です。この間、結婚したり、出産したりと色々な事がありました。一番大きな出来事は大阪市音楽団が昨年4月から一般社団法人として活動を始めた事でした。今年3月16日に楽団名称を“Osaka Shion Wind Orchestra”として、より一層パワフルに頑張ろうと団員一同気持ちを新たにしているところです。

さて、大阪市自営時代には数年に渡りオーディションが行われず「新人」さんが入団してこなかったのですが、待望の「新人」さんが入団してきたのです。これは本当に嬉しい出来事です。今まで「新人」のままずっと年を取ってきた私にとって、なんと「新人」様の要領しい事よ！

若いと言う事は素晴らしい事です。楽団の雰囲気も心なしか明るく若返ったように感じるので、以前からのメンバーも刺激をもらい、また一つ一つかけがえのない仲間と“Shion”の音を創っていています。

“Shion”に残った作編出身プレイヤーはHの山口潤さんと私だけになってしまいましたが、事務局の営業担当に定金佳代さんがやってきました！いつの時も作編の先生、先輩、同級生、後輩は私を支えてくださっています。各地で卒業生の皆様にお会いできることを心から楽しみにしています！演奏に携った際にはお声がけください。

愛する“Shion”を池田とともどもどうぞよろしくお楽しみ致します。

山口潤さん

卒業年：昭和62年 音楽学部音楽学科 ホルン

公務員時代は活動の制約が有りましたが、今は自由に向いて演奏活動やレッスンなどやっています。給料は激減しましたが、スタジオの仕事や、オケマンにはきっと分からない吹奏系のノウハウなんかを中高生に教えてあげられる事がとても通しくて、毎日楽しく音楽をしています。



＜Osaka Shion Wind Orchestra (旧 大阪市音楽団) プロフィール＞

1923年(大正12年)に誕生以来「市音しおん」の愛称で親しまれている交響吹奏楽団。2015年3月から「Osaka Shion Wind Orchestra」に名称変更。クラシックからポピュラーまで誰もが楽しめるコンサートを展開し、各都市での演奏会や吹奏楽講習会、CD録音など、幅広い活動を通して音楽文化の向上と発展のために力を注いでいる。これまでに3度の大阪文化祭賞、日本民間放送連盟賞、日本吹奏楽アカデミー賞演奏部門賞、大阪芸術賞、なにわ大賞を受賞。2014年4月より宮川修良が音楽監督、秋山和廣が芸術顧問に就任。

作陽トロンボーン奏陽会のご紹介♪

2012年の第20回作陽トロンボーンアンサンブル演奏会より正式に活動を始めた私共「奏陽会」は、くらしき作陽大学トロンボーンアンサンブルに所属していたメンバーが、社会生活では経験することができなくなってしまった大編成のトロンボーンアンサンブルを通じて音楽の生涯学習の場として、また現役学生の後援団体として活動してまいりました。今年度は、初の奏陽会単独演奏会を企画するなど、演奏活動に意欲的に取り組んでおります。まだまだ若手のメンバーばかりで、運営に際しては多くの方々のご協力を賜っておりますが、若い力を生かして積極的に運営してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願い致します。



左から山口さん、定金さん、池田さん

定金佳代さん

卒業年：平成14年 音楽学部音楽教育学科 吹奏楽指導専修

皆さん、こんにちは！学生の頃から大好きだったShionに昨年の9月から勤務しています。それまでフルートやマーチングの指導をした事はありましたが、長く一般の企業で営業事務や経理の仕事をしており、音楽は趣味で演奏する事にとどまっていた。しかし！民営化したShionの事業拡大に伴う営業担当の募集が昨年の夏にあり、思い切って転職しました。今まで企業で経験してきた事を全て生かす事ができ、毎日が本当に楽しいです。

私が手に持っているのは「タマフカス」という卵型の木製のマフカスで、今やShionの1つの名物となりつつある参加型のファミリーコンサートで子供様にお配りしています。コンサートの中で一緒に振ってもらい、会場全体がノリノリで楽しい雰囲気☆経済後ニコニコしながら帰っていく親子、おじいちゃんおばあちゃんを見ていると本当に幸せな気持ちになります。

今はShionの事をたくさん知って欲しい、Shionの演奏をたくさんの人に聴いて欲しいという気持ちで各地を回っております。全国各地、世界中の卒業生の皆さん、是非1度Shionの演奏を聴いてください。Shionの演奏会に来てください。きっと皆さんにも幸せな気持ちになって頂けると思います！皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。



森 博文 特任准教授

卒業年：平成元年 学科：音楽学部音楽学科 ホルン

ドイツ留学時代から帰国後の演奏活動について教えてください

ドイツに戻ってからはハノーファー芸術大学でホルン吹奏、北ドイツ放送交響楽団などで活躍されていたマン・シュレーダー先生に学びました。レッスンでは音楽の感じ方、作り方、聴き方など基礎からオーケストラのオーディションを受けるために必要なことの全てを教えてくださいました。

ドイツの学生たちはとても真面目で音楽、ホルンについての探求心に溢れていました。彼らの作り出す音、音楽にはいつも大きな刺激を受けました。

留学してほごなく、ホルン四重奏や劇場での仕事をいただけるようになり大学では味わえない様々な経験を積むことによって音楽に対する考え方が大きく変わりました。そのままだイツで就職したかったのですが留学資金が底をつき始めたとき、九州交響楽団のオーディションに合格しました。

九響には作陽を卒業された先輩方がたくさん活躍されていて本当に何から何まで面倒を見ていただきました。3年間を過ごして自分の可能性を追求したくなり98年から東京フィルハーモニー交響楽団に移籍しました。



ワンフューター賞

東京に移ってからは東京フィルハーモニー交響楽団での仕事のほか様々な仕事を頂けるようになり生活は一変しました。テレビ、ラジオ、スタジオでの様々なレコーディングと仲間たちとのアンサンブルなど演奏するフィールドが広がったことで音楽や楽器についての考え方がより深くなったと感じています。

同窓生にメッセージをお願いします!

卒業して25年が過ぎ作陽に戻ってまいりました。現在、私が東京フィルハーモニー交響楽団の首席奏者として活動出来ているのは作陽で出会った先生、先輩、仲間たちのおかげです。特任准教授として戻り、今度は私が後輩たちに与えられることのすべてを与える番だと思っています。



お母様と

少子化が進む日本、作陽にも少子化の波は確実に影響して学生の数が減少しています。昔のようにみんなで集まって何かをするという空気も減っているように感じますが、音楽は人と人の繋がりで育つと思います。私が過ごした頃の作陽のように多くの仲間とより充実した時間を過ごせるようにみなさんも卒業生として母校作陽の後輩たちを育ててください。卒業生のみなさんとまたどこかでお会いする日を楽しみにしています。

特任准教授となって一年、大学の雰囲気は?

私が学生だった頃の作陽は津山市にありましたが、くらしき作陽大学に来てみて、まず「新幹線の停まる街に大学があること」が新鮮でした。キャンパスはとても明るく開放的な雰囲気に包まれていて、心なしか学生たちも明るくのびのびとしているように感じますね。意欲的に移転しても「聖徳殿」があり、私が卒業し25年過ぎた今も懐かしい先生方もいらっしゃるし、学生からは先輩としても見られているようなので東京からレッスンに行くたびに「作陽に帰ってきまー」という気持ちになれるような温かい雰囲気を感じています。



ホルン演奏

どんな学生生活を送っていましたか?

あの頃の作陽音楽大学(津山市)は実家を離れて独り暮らしをする学生が多かったせいで、大学でもプライベートでもとにかく仲間と過ごす時間が多かったですね。

絶対にプロになる!と真意が荒かった私は「東京で勉強する学生はきっと充実しているだろうなあ、俺はこんな山奥の大学で勉強していて大丈夫だろうか…」と不安にかられて本当に朝から晩まで練習場で練習していました。プロになった今ではそんな熱気はどうでもよかったんだと分かりましたが…

練習舎に行けば仲間や先生と自然に集まってアンサンブルを始めたり、その後はみんなで集まって食事をしていたりしているような雰囲気でお互いを刺激しあっていました。

私のホルンの先生は叔・新田厚先生だったので日本の音楽界を作ったとされたファゴットの戸澤宗雄先生とは夜中まで「音楽とは…プロのプレイヤーとは…」という話を酒を飲みながら楽しく語りました。

作陽音楽大学での四年間はそんな濃厚な音楽酒けの生活を送っていました。

鹿児島県支部

鹿児島支部長 上日本 勲



鶴声会鹿児島支部では、去る3月27日(金)に5回目となる「くらしき作陽大学スプリングコンサート」を開催しました。

このコンサートは、くらしき作陽大学が創立80周年の喜びの晴を込めようとしていた平成21年に、鶴声会鹿児島支部が「2009 新人紹介演奏会 in 九州」を開催したことが契機となり、現在に至っています。

当日の演奏者は、高い目標と豊かな音楽性を持った鹿児島を代表する音楽家たちです。深い思いを込めた「音」を通して、御来場いただいた方々の心に語りかけ、深い感動と喜びの世界へ御案内できたものと確信いたしております。演奏者諸氏は、今後、更に自己を磨き、尚一層活躍するものと期待しています。さらに、プログラムに華を添えていただいたのが、本県出身でくらしき作陽大学非常勤講師、島崎由美先生の卓越したピアノ演奏でした。これは、鶴声会本部のお力添えによって実現いたしました。鹿児島支部としても喜ばしいことと深く感謝いたしております。

このコンサートを通して、鹿児島の音楽発展に少しでも寄与することができればと考えています。今後は、出演者が固定化しつつあること、尚一層の魅力ある構成、会場に来ていただく方を増やすことなどの課題を改善し、経費捻出にも更なる工夫を重ねてまいります。

鹿児島では、「作陽」を築立った多くの卒業生が、中学校や高等学校における音楽教育をはじめ、吹奏楽や合唱などの指導、演奏家、レスナーとして大きく活躍しています。母校では、現在も鹿児島から多くの在校生が学びを深めています。鹿児島支部では、「作陽」において研鑽を続ける後輩たちの演奏機会を設けることなどの必要性も感じています。

同窓会支部としては初となる高知新聞社文化賞を受賞されました。

高知県支部

高知県支部長 池上 恭一

8月28日(金)18時30分より高知県立美術館ホールにて開催にむけて私たち高知県支部は準備や練習を進めています。先駆けて嬉しいご報告があります。高知新聞厚生文化事業団の助成金団体に決まりました。この助成金は、県民の福祉と芸術文化を支援する事業です。一大学の同窓会活動の決定は初めてです。高知県にくらしき作陽大学の卒業生は400名以上。それぞれが各分野に活躍や社会貢献が評価されたものと喜んでおります。大学が高知県に実施する演奏会や中高生へ楽器別講習会の功績もあります。コンサートは30周年記念から始まり、35周年と今回の40周年。その間に毎年おこなうミニコンサート。日々と継続している活動は出身大学への愛と同窓生を繋ぐ為の向上心があり、県民に音楽の楽しさを伝えたい気持ちの原動力となっています。今回は、作陽高知県人会合唱団が藤敏幸先生指揮「ミサ曲グロリア」を演奏致します。また、長瀬先生率いるサクソグループのステージ、在校生や卒業生による演奏など盛り沢山の内容です。同窓生の皆様、ぜひ当日は高知にお越しください。今後は、感動と喜びを共感できる一夜にしようと思っております。



来年は姫路で開催いたします!

関西支部

関西支部長 石野 皓弘



2015年5月6日、第8回関西支部同窓会を北野工場のまち3階講堂(神戸市中央区)にて開催いたしました。

関西支部同窓会は、関西圏在住の作陽音楽大学、作陽短期大学音楽科の卒業生を中心として8年前からゴールデンウィーク最終日にミニコンサートならびに懇親会を開催しております。

3回目より、廃校になった旧神戸市立北野小学校講堂で開催しています。築年数100年を超える木造建築で、阪神淡路大震災にも耐えた重厚で大変由緒ある貴重な建物で、現在は神戸北野異人館界隈の観光の拠点となっています。国際都市神戸として開校以来、音楽教育に特化した小学校として、越境入学希望者も多かったとのこと。

今年もこの北野小学校(北野工場のまち)にて、3期生から42期生までの同窓生18名が参加、本部より安部氏、宮村教授のお二人にお会いいただきました。同窓生の弟子による演奏、全員合唱のミニコンサートの後、近況報告やゲームで親交を深めました。

懇親会では卒業生経営のお店で楽しく和やかに食べて飲んで笑い、二年後の同窓会10周年記念コンサート開催に向けての話し合いと、来年の再会を誓い解散いたしました。

来年は、開場を姫路に移し5月4日開催いたします。より多くの卒業生の皆様方にお越しいただきたいと思っております。

同窓生のご活躍を紹介させていただきます!



音楽学部 学科長
教授 菅付 章宏
卒業年：昭和38年
学 科：音楽学部音楽学科 オーボエ



音楽学部
名誉教授 林原 郁雄
卒業年：昭和34年
学 科：音楽学部音楽学科 クラリネット



音楽学部
教授 長瀬 敏和
卒業年：昭和57年
学 科：音楽学部音楽学科 サックス

- ・菅付章宏先生が本年度より短期大学教授として学科長に就任されました。
- ・長瀬敏和先生が本年度より音楽学部教授に就任されました。
- ・林原郁雄先生が名誉教授になられました。



井嶋会長が平成26年度地域文化功労者表彰を受けられました

地域文化功労者表彰(文部科学大臣表彰)は、全国各地で芸術文化の振興、文化財の保護など地域文化の振興に功績のあった個人および団体に対して、その功績をたたえ文部科学大臣が表彰します。平成26年度は全国で46名の個人が表彰され、福岡県代表として表彰されました。井嶋会長より「昨年福岡県知事から地域文化功労賞をいただきましたが、二年続いたの表彰に身に余る光栄と同時に、このことをしっかり受け止め、今後、可能な限り音楽を通しての地域文化向上に努めていきたいと考えております。」

1 鶴声会後援申請について

近年鶴声会では、後援申請制度を本格的に取り入れております。申請にあたり、所定の用紙にご記入いただき提出していただくこととなりますので、必要な際には事務局まで気軽にご連絡ください。演奏会・講演会を開催する際には、是非ともご一報いただきます様お願い申し上げます。

2 演奏会・講演会告知支援

演奏会・講演会を開催される皆様! その際には鶴声会へご連絡ください。HPにて告知のご協力を行わせていただきます!

3 同窓会を企画されている方々へ

同窓会を企画されている皆様! 同窓会を企画される際にはご連絡いただきますと鶴声会によるバックアップをさせていただきます!

4 住所不明会員検索協力をお願い

現在約1万人の会員がいる中、転居等により連絡先が変更された方に鶴声会からのご連絡ができない状態になっている方が多数いらっしゃいます。もし何かの折にこの会報誌が届いていない方をご存知でしたら、直接ご連絡いただくか、大学HP内鶴声会連絡フォームよりご一報いただけますと幸いです。ご協力よろしくお願いいたします!

お引越しいやご結婚等によりご住所、お名前に変更が発生した場合には鶴声会事務局までご連絡ください。また、お知り合いの方で会報誌が届いていない方がいらっしゃれば恐れ入りますが鶴声会へのご連絡をしていただくようお願いいたします。

鶴声会専用連絡フォームURL

https://www.ksu.ac.jp/form/kakusei_contact/

大学HP「Topページ」→上欄「卒業生の方」→「同窓会」→「鶴声会お問い合わせ・住所変更とお進みください」



スマートフォンのバーコードリーダーアプリ等で読み込んでいただければご利用いただけます。

大学からのお知らせ

トピックス1

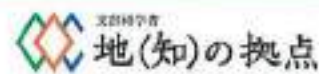
第29回管理栄養士国家試験合格率100%達成
(岡山県内最多人数(76名)輩出!)

トピックス2

くらしき作陽大学は、「文化産業都市倉敷の未来を拓く若衆育成と大学連携モデル創出事業」を申請し、採択されました。

COCってなに?

くらしき作陽大学と倉敷芸術科学大学が地域の人と共に「倉敷」に元気と感動をもたらすプロジェクトです。



トピックス3

入学優遇制度のご案内

入学生の父母がくらしき作陽大学(旧作陽音楽大学)・作陽音楽短期大学(旧作陽短期大学)の卒業生の場合、入学後入学金相当額が給付されます。詳細は入試広報室までお問い合わせください。

2016年度版の新しい大学パンフレットができました!ご希望の方にはお送りしますのでご連絡ください。



何か特集してほしいことがございましたらどんどんリクエストをお寄せください。

各県別会員数

(平成27年3月現在)



年度別会員数

| 年度 | 卒業生 | 現職 | 退職 | 合計 | 年度 | 卒業生 | 現職 | 退職 | 合計 | | |
|------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|-----|-----|
| 1970 | 77 | 77 | 1560 | 115 | 50 | 166 | 1991 | 104 | 44 | 148 | |
| 1971 | 77 | 77 | 1561 | 112 | 55 | 167 | 1992 | 96 | 46 | 142 | |
| 1972 | 109 | 109 | 1562 | 115 | 54 | 169 | 1993 | 131 | 51 | 182 | |
| 1973 | 96 | 96 | 1563 | 114 | 59 | 173 | 1994 | 126 | 68 | 194 | |
| 1974 | 96 | 96 | 1564 | 113 | 52 | 165 | 1995 | 136 | 57 | 193 | |
| 1975 | 102 | 102 | 1565 | 118 | 59 | 177 | 1996 | 125 | 59 | 184 | |
| 1976 | 144 | 144 | 1566 | 122 | 61 | 183 | 1997 | 125 | 57 | 182 | |
| 1977 | 154 | 154 | 1567 | 122 | 64 | 186 | 1998 | 134 | 56 | 190 | |
| 1978 | 145 | 145 | 1568 | 101 | 55 | 156 | 1999 | 133 | 58 | 191 | |
| 1979 | 141 | 41 | 182 | 1569 | 56 | 41 | 197 | 2000 | 121 | 50 | 171 |
| 合計 | 5059 | 1895 | 1020 | 822 | 234 | 308 | 1361 | | | | |